

千葉市立緑町中学校 キャリア教育グランドデザイン

特別活動の研究について

全体研究主題との関わり		生徒の実態	
<p>「なすことによって学ぶ」ことを方法原理としている特別活動の各内容に、着実に取り組み、今まで以上に、学校教育全体で学んだキャリア教育に関する知識を統合・深化させ、体験的に実践していくことが、キャリア教育実践の推進に向けて、特別活動に強く求められているところである。</p> <p>特別活動では、学級活動・委員会活動・学校行事を通して、学んだことを人生や社会でのあり方と結び付けて深く理解したり、これからの時代に求められる資質・能力を意識して身に付けたり、生涯にわたって自ら進んで学び続けたりすることができるようになることが重要である。集団の一員として、学級や学校におけるよりよい学校生活づくりに取り組むことで、社会づくりに主体的に参画する意識を育てたい。そのためには、事前と事後の意識の変容が分かるワークシートを活用することが必要であると考え。これが、生徒自身が自己の在り方を見つめる「自己理解・自己管理能力」とどこに課題があるかを見出し、解決しようとする「課題対応能力」の向上につながることを考え、本研究主題を設定した。</p>		<p>昨年度末の意識調査において、「自分から役割や仕事を見つけたり、分担しながら、周囲の力と合わせて、行動しようとしていますか。」という質問において、肯定的な意見は90%を超えており、主体的に活動をして、友人と協力する意識が高いことがわかる。この調査はあくまでも、学校という一つの社会において、その行動をしているかというものである。しかし、生徒が属する社会は、学校だけでなく、生徒が住む地域の社会も含まれる。4月に行われた避難訓練後に、「保護者の方と災害時の避難場所について、話をしたことがあるか」と質問をしたところ、33%の生徒しか、保護者と話をしていないという実態があった。災害時、自ら住む地域という社会に、自分は何ができるのかを考え行動していく態度も育成していく必要がある。特別活動の目標にも、「集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする態度を育成する」とある。学校という一つの社会だけでなく、自らが属する地域に対して、自分が何をできるのかを考え行動できるような経験を積むことも目標達成には必要であると考えた。</p>	
研究主題			
主体的に社会における自己の在り方を考えられる生徒の育成 ～「自己理解・自己管理能力」と「課題対応能力」の向上を目指して～			
目指す生徒の姿			
㊦ とめあう力	㊦ つめる力	㊦ いだす力	㊦ とおす力
<ul style="list-style-type: none"> ・共に助け合って生きることの喜びを感じるができる。 ・学級や学校における集団生活において、教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いや信頼関係を築くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己および他者の個性の理解と尊重することができる。 ・安全な行動や規律ある集団行動ができる。 ・責任感や連帯感を持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級や学校における身近な問題を見出し、その問題を解決するための手立てを考えることができる。 ・行事の事前と事後で、自分が実際に次の場面で、どのようなことができるのかを選択することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会参画に向けて、自分ができることが何かを見通すことができる。